

これからの ジェンダー平等

2025年6月19日（木）18:30-20:00

池袋キャンパス 14号館 D401 教室

近年、「女性差別」に対する人々の考え方の中に、かなり対立が目立つようになってきている。その理由を考えていくと、そこには、「女性差別」に対する考え方の違いがあると考えられる。それは、性別カテゴリーを根拠にして人に対する処遇を決めることを「女性差別」とするような考え方と、結果的に「性別役割分業観」に沿った決め方をした場合も「女性差別」とする考え方という、二つの考え方の違いである。前者の考え方で「女性差別」を考えると、現代社会においては、「女だから～すべきだ」等の性別カテゴリーを表に出した理由づけはかなり薄まっているので、「女性差別」はほぼなくなって来たと考ええる人が多い。

しかし後者の考え方で「女性差別」を考えると、家事育児時間の長さや労働時間などにおいて明確に男女間で大きな差があり、現代社会は全く「男女平等」ではない社会ということになる。前者からすれば「女性差別はほぼなくなっているのに、いつまでも女性差別の存在を言い立てるのはいかなものか」という判断も生まれ、後者からすれば、「男女平等が全く実現していないのに、もはや女性差別はないかのように主張することは許せない」ということにもなるように思われる。しかし、実際にはこの二つの考え方は、「女性差別」の異なる側面に焦点を当てているにすぎない。講演においては、意識と無意識や、個人の行為としての「差別」と社会構造上の「差別」等の観点から、二つの考え方がどの部分に焦点を当てているのか等を考察し、両者が共通して目指しうる方向性を見出したい。



講師 江原 由美子（えはら ゆみこ）氏

1952年生まれ。1979年東京大学院社会学研究科博士課程中退。東京都立大学・お茶の水女子大学・横浜国立大学などに勤務。博士（社会学）・東京都立大学名誉教授。専門はジェンダー研究、理論社会学。主著に、『持続するフェミニズムのために：グローバリゼーションと「第二の近代」を生き抜く理論へ』2022年、『増補女性解放という思想』筑摩書房 2021年、『ジェンダー秩序』（新装版）勁草書房 2021年、『自己決定権とジェンダー』（オンデマンド版）岩波書店 2021年、『ラディカル・フェミニズム再興』（POD版）勁草書房 2012年、『フェミニズムと権力作用』勁草書房 2000年、『装置としての性支配』勁草書房 1995年、『フェミニズムの主張』勁草書房 1995年他。



対面とオンラインのハイブリッド開催

定員 対面：180人／オンライン：1000人

←お申し込みはこちら <https://s.rikkyo.ac.jp/3bjgfyh>

締切：6月17日（火）

主催・お問い合わせ：立教大学ジェンダーフォーラム

TEL：03-3985-2307 E-mail：gender@rikkyo.ac.jp

<https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/>